

はじめに

2013年SLOCが設立され、ロコモ認知度と理解度アップを目的とした事業が主にマスメディアを用いて展開され、認知度が上がりつつあるが、他科の医師・地域医師会の理解度はいまだ低いのが現状と思われる。

地元でロコモの啓発と予防の実践を行い、その成果を示し、医師会活動方針として行政に働きかけることで、行政の事業として運動器検診と予防活動が成されている。そこに至る活動を報告する。

方法・結果

平成18年、整形外科医・理学療法士・作業療法士で高齢者の移動能力維持を考える会を結成し転倒予防教室を開催した。その成果を基に医師会事業方針として運動器機能測定を行政に働きかけ、低下者に介入事業を行っている。また行政とともに検診結果を解析しメタボとロコモの関連を調査している。これらの事業を推進するため、ボランティアとして活動する「いきいき運動サポーター」の養成をおこない、成果を挙げている。

高齢者の健康に関わる県内他科多職種で「岩手転倒予防研究会」を結成し、5回の岩手転倒予防フォーラムと市民公開講座を開催している。

児童生徒運動器検診をモデル校での試行を経て、平成26年度から医師会管轄の全小中学校で実施した。医師会、養護教員部会、教育委員会で構成する学校医連絡協議会で結果を解析して、運動器機能不全と肥満の関連などを検討している。

医師会活動のなかで、整形外科医として地域の健康に関わる協議会等に積極的に参加し、ロコモ事業実施の重要性を強調している。

結語

地元で顔が見えるJCOA会員がロコモ事業を提案・実践し、その成果を示すことで、他科・多職種の理解を得て、医師会事業として行政・住民に働きかけることがロコモ啓発・実践活動のもうひとつの大きな柱となるべきと考える。